

平成 28 年度第 3 回九州病院地域医療運営委員会 議事概要

【日 時】平成 28 年 11 月 4 日（金） 18：30～19：20

【場 所】JCHO 九州病院別館 4 階 大会議室

- 【議 題】
1. 委員の変更について
 2. 当院の現況報告（上半期実績等報告）について
 3. 北九州地区救急医療事情について
 4. 今後の地域医療運営委員会の運用について

- 【出席者】
- 穴井 堅能（北九州市八幡医師会会長）
 - 松村 洋（北九州市医師会理事）
 - 大蔵 雅文（八幡歯科医師会専務理事）
 - 白石 昌之（香月中央病院院長）
 - 松本 八州人（青山中央外科病院院長）
 - 河村 恭輔（河村内科医院院長）
 - 金 平榮（永犬丸小児科医院前院長）
 - 川越 忠篤（川越産婦人科クリニック院長）
 - 西村 博行（正和なみき病院副院長）代理出席
 - 脇園 隆二（八幡薬剤師会会長）
 - 竹村 保美（八幡西消防署長）
 - 田中 隆信（八幡西区役所保健福祉担当部長）
 - 正木 文久（まさき司法書士事務所司法書士）
 - 森 敏明（黒崎地区自治区会連合会会長）
 - 多治見 司（JCHO 九州病院院長）
 - 水島 明（JCHO 九州病院副院長）
 - 内山 明彦（JCHO 九州病院副院長）
 - 三島 俊彦（JCHO 九州病院事務部長）
 - 元嶋 文恵（JCHO 九州病院看護部長）
 - 是永 緑（JCHO 九州病院地域連携室長）
 - 高田 由美子（JCHO 九州病院副看護師長）

【概 要】

1. 委員の変更について
 - ・構成員名簿により説明
 - ⇒構成員の承認を得た。

2. 当院の現況報告（上半期実績等報告）について

- ・上半期診療実績を報告。

3. 北九州地区救急医療事情について

◇ 意見

救命救急センター承認申請について

- ・ JCHO九州病院には、救急医療において非常に頑張ってもらっていることは我々も理解している。救命救急センターを取得すると、今以上に救急患者が増えることが予想され、救急医、他職員の業務がより増えることが危惧されるのではないか。
⇒既に3次救急レベルの診療を行い重症患者は受入れている。他病院等との機能分化を更に推進し、受入れ救急患者が2~3倍になることはないと考えている。救命救急センター承認については、医療計画においてかなり、難しい状況が見込まれるが、関係機関へアピールしたいと考えている。ワークロードは増えるが、重症患者受け入れが増えるのは当院の使命と考えている。最近是在院日数も短縮し、救急を受け入れる体制は出来ている。教育についても体制を整えつつある。
- ・ これだけ医療機関の機能分化が進んでいくと医療の質を確保しつつ、連携を取っていかなければならない。そのリーダーシップをJCHO九州病院が取っていただいて3次救急を目指すことは非常に大切なことです。
- ・ 九州病院の機能は、救命救急センターと同レベルだと思う。救急隊が救急搬送する病院は、患者さんの意向からすると80%程度がかかりつけ医となっている。また、診療実績において、循環器疾患の救急搬送が多い病院となっている。更に、看板にする診療科を持つことが大事だと思う。特に西部の方は東部に比べ救命救急センターがないので、救命救急センターが増えたほうが有難い。承認を受けることは大変だと思うが頑張っていたきたい。
- ・ 救命救急センターを目指すことは良いことだと思うが、急患患者を100%受け入れる体制で臨んでもらわないといけない。急患が来たら断らずに対応する体制をお願いしたい。申請する場合は県医師会へ働きかけたほうが良いのではないか。

⇒体制は今すぐに出来るという状況ではない。今後、それに向けて体制を整えていきたい。全国的には救命救急センターの受け入れ率は約95%であり、当院の現受け入れ率もこれに近い状況である。

- ・救命救急センターというのは機能別にあるのか。例えば外傷や災害医療に力を入れている病院もある。循環器をメインにした救急というのはあり得るのか。
⇒さまざまな疾患に対応できるように、施設・設備的な条件を整えていく必要があると考えている。

4. 今後の地域医療運営委員会の運用について

- ・今後の九州病院地域医療運営委員会の運用について説明した。また、構成員並びに議事概要の公開については各委員の了承を得た。

－以上－